

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	13-057	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Prenatal alcohol exposure and educational achievement in children aged 8-9 years. 胎児期のアルコール暴露と8～9歳の子供の学業成績について		
執筆者		
O'Leary CM, Taylor C, Zubrick SR, Kurinczuk JJ, Bower C.		
掲載誌		
Pediatrics. 2013 Aug;132(2):e468-75. doi: 10.1542/peds.2012-3002. Epub 2013 Jul 8.		
キーワード		PMID
飲酒関連疾患、教育結果、疫学、妊娠、胎児期の飲酒暴露		23837182
要 旨		
<p>目的： この研究は8～9歳の子供の読み方、書き方、基本的計算能力の成績と胎児期のアルコール暴露の量、パターン、時期との関連について調査することを目的とした。</p> <p>方法： 西オーストラリア州で1995年から1997年に非先住民地域住民の女性から生まれた子供をランダムに抽出したバースコホート(Randomly Ascertained Sample of Children born in Australia's Largest State Study cohort：参加者4,714名)をWestern Australian Midwives' Notification System、Western Australian Literacy and Numeracy Assessment statewide educationと照合した。コホートの参加者の86%（4,056人）の記録は子供が8～9歳の教育記録と結合できた。胎児期のアルコール暴露の量と学校での読み書き、基本的計算能力のテストの成績及び、テストへの不参加との関連を調査した。関連する交絡要因を調整してロジスティック回帰分析を用いてオッズ比と95%信頼区間(CI)を求めた。対象群は妊娠中には飲酒していない飲酒者の母親の子とした。</p> <p>結果： 妊娠第一期（妊娠16週まで）の多量飲酒者の子は読解力の能力が標準に達しないオッズは2倍(オッズ比 2.26、95% CI 1.10-4.65)、また妊娠後期で機会多量飲酒群では書く能力が標準に達しない子供がいたオッズは約2.4倍(オッズ比 2.35；95% CI 1.04-5.43)であった。中から低度の飲酒は学習非到達と関連を認めなかった。</p> <p>結論： 妊娠期時の飲酒量やそのパターン、そして時期によって学習障害のタイプに影響を与えることが明らかになった。</p>		